

スピリチュアリティとエネルギーケアの理解を深めよう！ スピエネット連続フォーラム14～15

『ザ・リビング・マトリックス』解説シリーズ・第3回  
**“信念の生物学”と“情報伝達のセンター・心臓”**

スピエネットでは、種々のセラピーが効くメカニズムを“フィールド”と“生体マトリックス”の視点からインフォメーション・メディスン（情報医療）として解説した話題のDVD『ザ・リビング・マトリックス』（LM）を学ぶことを目標として、この中の主要な人物やテーマから4回にわたる連続講座を行なうことにいたしました。

名著『バイブレーション・メディスン』（VM）の根拠を、フロンティア・サイエンスの視点から学んでいく必聴の内容です。ぜひ、この貴重な連続講座にご参加下さい。

- ★13:30～14:30「信念の生物学 ～思考のすごい力」 戸田美紀（HM 認定ヒーリングタッチ・プラクティショナー）  
 “エピジェネティクス”（新しい生物学）を開拓した細胞生物学者ブルース・リプトンは、遺伝子は確定的なものではなく、細胞の「外側」からやってくるシグナルがDNAをコントロールしており、意識や信念、そして環境が細胞をコントロールし、遺伝子のふるまいを変えると説明します。「量子生物学」の提唱者リプトンの考えを解説します。
- ★14:40～15:40「“情報伝達のセンター・心臓” ～脳より先んじて」 寺岡里沙（NES HEALTH JAPAN）  
 身体で一番早く情報をキャッチするのは脳ではなく、心臓だとするアメリカのハートマス研究所では、心臓の詳細な研究を重ねており、心臓が全身の“情報伝達センター”として作用していることを報告しています。心臓が感情によってエネルギースペクトルが変化し、コヒーレントな状態になっていることが重要であることを解説します。
- ★15:50～16:45 スピエネット対話＜ダイアログ＞ 戸田美紀×寺岡里沙  
 新しい生物学の視点である量子生物学の知見から生体における情報伝達の意味を検討していきます。



■日 時:2015年2月7日(土)13:30～16:45

■場 所:連合会館 501号室

■参加費:

会員 2,500円 一般 3,500円

\*会員とは主催、共催、協力団体の会員（ヒーリングタッチ東京はヒーリングタッチ・学生が会員扱い）を指します。

■申し込み手順

1. 必要事項(1 氏名、2 住所、3 電話、4E-mail、5 所属(①会員(団体名)・②一般)を、[ho-kanto@tg.rim.or.jp](mailto:ho-kanto@tg.rim.or.jp)へ(締切1/29(金))。\*または、FAXで 03-5572-8219まで。(当日のみ携帯:080-5484-8008)
2. 申し込み受理のお知らせ到着後1週間以内にお振込み下さい。三菱東京UFJ銀行 西新宿支店(普通)0057567 特定非営利活動法人日本ホリスティック医学協会
3. お振込み後、受付完了となります。お振込後の参加費はご返却できませんので代理受講でご対応をお願い致します。

＜主催＞NPO 法人日本ホリスティック医学協会関東フォーラム委員会（生活習慣病予防指導士3単位）  
 ＜共催＞NPO 法人日本スピリチュアルケアワーカー協会、ヒーリングタッチ東京  
 ＜協力＞日本アントロポソフィー医学のための医師会、NPO 法人サイレントン療法協会、日本トランスパーソナル学会

## ＜スピエネット連続フォーラムの日時・内容＞

全4回：主催・共催・協力団体の会員8,000円、一般12,000円

各回：主催・共催・協力団体の会員2,500円、一般3,500円

### ★フォーラムⅠ：2014年10月4日（土）13：30～16：45（会場：連合会館501号室）

#### “フィールド”と“生命場”

##### ・「“ゼロ・ポイント・フィールド”とは何か」 神尾 学（ホリスティック・リーディング研究所代表）

VMからLMへの架け橋となるのが、リン・マクタガートの『フィールド 響き合う生命・意識・宇宙』（インターシフト）です。多様な先端科学の分野で同時並行的に起きてきたパラダイム・チェンジに共通する本質を、“ゼロ・ポイント・フィールド”という概念で整理し、世界中に衝撃を与えた本書の全体像をVMと比較しながら紹介します。

##### ・「“生命場（ライフ・フィールド）”とは何か」 山本 忍（神之木クリニック院長）

“生命場（ライフ・フィールド）”を提唱したエール大学の解剖学教授ハロルド・サクストン・バーによる『生命場の科学 みえざる生命の鑄型の発見』（日本教文社）をとりあげ、身体の鑄型であるエーテル体の科学的な研究について解説します。バーの研究は、多くの書物に引用され続けている生体エネルギー研究の名著として知られています。

##### ○スピエネット対話＜ダイアログ＞

神尾 学×山本 忍

第1回目として、フィールド、場を巡る広い視点からダイアログを行い、2回目以降につながるように、立体的に理解を深めていきます。

### ★フォーラムⅡ：2014年12月6日（土）13：30～16：45（会場：連合会館501号室）

#### “形態形成場”と“生体マトリックス”

##### ・「“形態形成場”とは何か ～生命のニューサイエンス」 川畑伸子（NPO法人サイモントン療法協会副理事長）

分子や身体や社会が形成されるのは、遺伝子やタンパク質だけで起こっているのではなく、“形態形成場”という時間と空間を超えて働く作用があるとする、英国の生物学者ルパート・シュルドレイクの説を解説します。この作用により、ある程度の人が達成するとほかの人も容易にできるようになるとされ、テレビ実験もされています。

##### ・「“生体マトリックス”とは何か ～エネルギー医学の原理」 降矢英成（赤坂留池クリニック院長）

「マトリックス」という用語は、母体という意味もありますが、“生体マトリックス”と呼ぶ場合には「結合組織」を中心とした細胞骨格構造を指しており、単なる支持組織ではなく、規則正しく配列している結合組織の構造は液晶半導体として超高速伝達を行っているというアメリカの研究者ジェームスL・オシュマンの説を解説します。

##### ○スピエネット対話＜ダイアログ＞

川畑伸子×降矢英成

身体に関するエネルギー的な知見である形態形成場と生体マトリックスを巡って検討を進めていきます。

### ★フォーラムⅣ：2015年4月4日（土）13：30～16：45（会場：連合会館501号室）

#### “ボディフィールド理論”と“万物の統合理論”

##### ・「ラズロの“アカシック・フィールド”と“万物の理論”」 神尾 学（ホリスティック・リーディング研究所代表）

“フィールド”という興味深いものについてアービン・ラズロも「アカシック・フィールド」という概念を提唱しています。そこには「アガステアの葉」で知られるアカシック・レコードも収められているとされ、まさに宇宙の意味とも関連してきます。ラズロが提唱する物理学的な“万物の統合理論”も合わせて解説します。

##### ・「ウィルバーの統合理論からの“万物の理論”」 久保隆司（日本ソマティック心理学協会会長）

統合的な万物の理論といえば、インテグラル（統合）理論を提唱しているケン・ウィルバーを抜きにすることはできません。ウィルバーは、万物の理論とは、物理学やシステム理論などの外面的な領域にのみ還元されるべきものではなく、人間の意識や文化など内面的な領域をも含めた、インテグラルな視点から世界を捉える必要性を強調しています。

##### ・「NES HEALTH研究所の“ヒューマン・ボディフィールド理論”」 寺岡文織（NES HEALTH JAPAN）

このDVD『ザ・リヴィング・マトリックス』を製作したのはイギリスのNES HEALTH 研究所です。その創始者であるピーター・フレーザーは長年の研究により、人間を構成する磁気フィールドの中のエネルギー情報の構造とシステムを解明し、ヒューマン・ボディフィールド(HBF)と名づけました。その概念と実際のシステムを紹介します。

##### ○スピエネット対話＜ダイアログ＞

神尾学×久保隆司×寺岡文織

最終回はフィールドをさらに深めて実際的なヒューマン・ボディフィールドの概念について検討していきます。